

特報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

# 苦しみ癒えない 自死遺族に寄りそう

## 仏教界 宗派超えて法要や集会

家族や友人を自死(自殺)で亡くした人々の苦しみは深い。親しい人にも自死の事実を打ち明けられず、自分を責めてしまふこともある遺族らに寄り添う仏教界の取り組みが注目されている。静かに故人をしのぶ時間をもってもらおうと追悼法要など、宗派を超えて様々な動きが広がっている。

(橋本誠)

「親族から、自殺を伏せるように言われた」「時間がたったから元気になったのでは」と言われ、人どつきあうのがつらかった」

五日に東京都港区の増上寺で開かれた浄土宗東京教区教宣師会「自死者追悼法要」の事前講習会。夫を亡くした女性が「本人が生きて帰らない限り、苦しみは終わらない」と話し、NP法人グリーンフサポートリンク(全国自死遺族総合支援センター)の集いに参加して救われた体験を語った。

自死者の追悼法要は二〇〇九年に始まり、今回で九回目。僧侶らは十日午後五時に増上寺で行う法要に向け、読経や会場案内などの役割を確認した。当日は浄土宗の法要となるが、どの宗派の人も参加できる。参加費不要。宗派への勧誘はしない。

仏教界によるこうした活動は一九九〇年代から現れたという。全国の自死者は九八年から十四年連続で三万人を超える状態が続い

### 差別や貧困…いのちの問題深刻

#### 自殺による死亡率 日本ワースト6位

僧侶らは葬儀などで、悲しみにくれる遺族らに接してきた。大きな衝撃を受け、放心状態で十分な葬儀をできなかったという遺族も多いという。東京都府中市の蓮宝寺の小川有閑住職(三宅)は「突然お別れが来て



自死者追悼法要の事前講習会に参加する僧侶ら。5日、東京都港区の増上寺で

しまつので、断絶感や、もう一度会いたいという思いが強い。親族が集まる法要で「一緒に住んでいてなぜ止められなかった」と責められることもあり、ゆっくり故人をしのべない。自死者追悼法要に参加することで、亡き方と会えた気がするとか、つながりができたという人が多い」と話す。

法要には大切な人を自死で亡くした人しか参加しない。同じ境遇の人たちが集うことで、行慶寺の前田崇史副住職(三宅)も「誰かに気を使うこともない。涙を流している人もいる」と語る。

昨年の自死者数は約二万一千人に減ったが、日本は各国の自死死亡率でワースト六位と依然高水準にある。二〇〇七年に超宗派で結成した「自死・自殺に向き合う僧侶の会」は自死を「差別や貧困、いじめや虐待、孤立や過度な競争、行

きすぎた個人主義といった「生き方」や「いのちのあり方」に関する問題が悪化した結果」ととらえる。

「ただ自殺者の数が減ればいいのではない。私たち一人一人が生きて暮らすようになった帰結として減ってほしい」と、自殺に関する相談に僧侶が手書きの手紙を返す活動をしている。毎年十二月一日に自死者追悼法要を行っているほか、自死者の遺族や恋人、友人などが集まる「いのちの集い」を毎月開いている。共同代表の吉田尚英・日蓮宗永寿院住職(三宅)は「日常生活に追われていると、亡き方やご自身の心と向き合つことが難しい。お寺がそつした場所でありたい」と話す。

浄土宗東京教区教宣師会の法要の申し込みは、ともに祈る事務局(電話080(3531)4079)へ。自死・自殺に向き合う僧侶の会への問い合わせはホームページ(www.bouzsanga.org)へ。

スイスでは昨年十一月こ

安全対策強化の必要性が

もう一つは五万人以上の賛

成時期を早めることを求め